Kabayaki for Linux
取扱説明書
Version 1.5.0

はじめに 1

Kabayaki の管理とは 1
コンテンツとインデックス 1

第 1 章 管理画面の構成 3

管理画面の表示 3

第 2 章 サーバー関連メニュー 7

サーバー環境情報 7

第 3 章 インデックス関連メニュー 11

インデックス一覧 11
新規インデックス追加フォーム 12
コンテンツ設定 14
フィルタ設定 16
チューニング 18
ログ一覧 21

第 4 章 検索および検索結果画面 23

検索画面の表示 23
検索方法 24
検索式 24

付録 A 文書フィルタと
プロパティ検索詳細 27

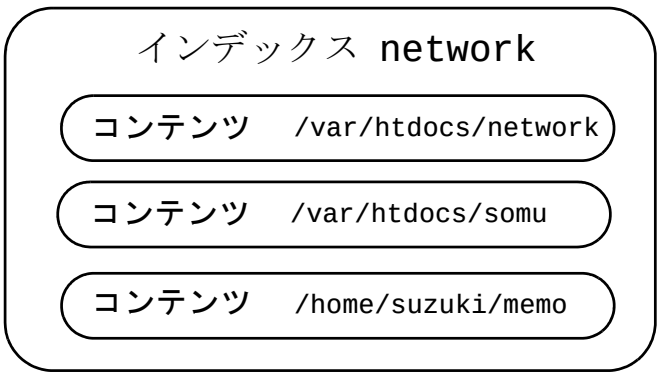
文書フィルタ 27
対応文書 27
プロパティ検索 28
OLE オブジェクト検索 28

はじめに

Kabayaki の管理とは

コンテンツとインデックス

Kabayaki は、コンテンツとインデックスという枠組みを使用して文書を検索します。コンテンツとインデックスとは次のような関係になります。



上の図では、Kabayaki を運用するシステム上のファイルシステムでは、/var/htdocs/network、/var/htdocs/somu、/home/suzuki/memo という別々の場所で管理している社内ネットワーク関連文書を、network という 1 つのインデックスにまとめて管理しています。

第 1 章　管理画面の構成

管理画面の表示

Kabayaki の管理には、Microsoft Internet Explorer や Netscape Communications Netscape Navigator などの Web ブラウザを使用します。管理画面を表示させるには、Web ブラウザへ次のように URL を入力します。

http:// *ホスト名* /kabayaki/cgi-bin/admin/rc.cgi

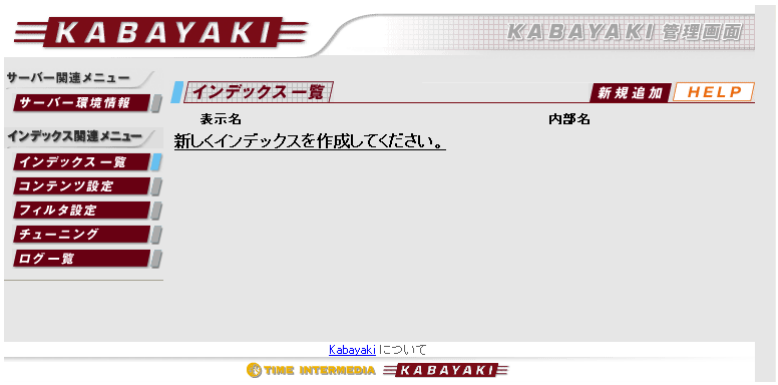
「*ホスト名*」の部分には、Kabayaki をインストールしたコンピュータの名前を入力します。

たとえば、Kabayaki をインストールしたホストが search.timedia.co.jp ならば、次の URL になります。

http://search.timedia.co.jp/kabayaki/cgi-bin/admin/rc.cgi

Web ブラウザには、次のような Kabayaki 管理画面が表示されます。

Kabayaki パッケージのみをインストールして、sansyo パッケージをインストールしていない状態での画面イメージ (GPL 版):



管理画面左側の一覧をメインメニューと呼びます。メインメニューは、サーバー関連メニューとインデックス関連メニューから構成され、オプションパックである sansyo パッケージがインストールされている場合は、さらに一覧が追加されます。

Kabayaki と sansyo パッケージの両方をインストールした状態での画面イメージ (製品版):

マウスカーソルを各メニューの一覧へ重ねると、ボタンの右側にあるインジケータと呼ばれる部分の色が変化します。メニューから選択するには、色の変わったインジケータの右側のボタンをクリックします。

サーバー関連メニューでは、Kabayaki をインストールしたホスト全体に関わる情報の設定や表示の種類を選べます。インデックス関連メニューでは、検索に必要なインデックスの情報を設定する機能を選べます。メインメニューは、機能を選んで画面が切り替わっても、常に表示されています。

Kabayaki をインストールして、最初に Kabayaki 管理画面を表示させたときは、サーバー関連メニューのサーバー環境情報とインデックス関連メニューのインデックス一覧しか選ぶことができません。その他の一覧や設定を選ぶには、後述する手順でインデックスを作成する必要があります。

各設定画面に共通で表示されるものに、さらに次のものがあります。

「新規追加」ボタン

ページ右上に表示されます。クリックすると、新たにインデックスを追加するための設定画面が表示されます。インデックス関連メニューを選択したときのみ表示されます。

「ＨＥＬＰ」ボタン

ページ右上に表示されます。クリックすると、各設定画面のオンラインヘルプが表示されます。

「削除」ボタン

インデックスの内部名の右側に表示されます。クリックすると、選択されているインデックスを削除する画面へ移り、削除するか確認されます。削除する場合は、削除ボタンをクリックします。削除を取り消す場合はキャンセルボタンをクリックします。

「インデックス選択」

インデックス関連メニューを選択したときのみ表示されます。ページ中央やや上部に表示されている内部インデックス名の右の矢印をクリックすると、インデックス名の一覧がメニュー表示されます。メニューからイン

デックスを選択すると、表示および操作の対象となるインデックスが変更されます。

「保存」ボタン

ページ下部にある「保存」ボタンをクリックすると、ページに入力されている内容が保存されます。

第 2 章　サーバー関連メニュー

サーバー環境情報

Kabayaki をインストールしたホストに関する情報を表示します。また、検索および検索結果の画面のデザインを変更できます。管理画面の左側に表示されるメニューの「サーバー環境情報」ボタンをクリックすると、この「サーバー環境情報」画面が表示されます。

画面に表示されている情報は以下の通りです。

ホスト名

Kabayaki が動作しているホストの名前が表示されます。環境変数 SERVER_NAME を参照しています。SERVER_NAME が設定されていない場合は、「不明」と表示されます。

ホスト IP アドレス

Kabayaki が動作しているホストの IP アドレスが表示されます。これは、環境変数 SERVER_ADDR を参照しています。SERVER_ADDR が設定されていない場合は、「不明」と表示されます。

実行ユーザ

Kabayaki 管理画面を実行しているプロセスの実行ユーザ名が表示されます。

Kabayaki ホームディレクトリ

Kabayaki のフィルタやライセンスが格納されているディレクトリの最上位を表示します。これは、環境変数 KABADATADIR を参照しています。

検索ページテンプレートタイプ

検索と検索結果の画面の外観を選択できます。default は、インストールした直後と同じ画面、enterprise は、高級感のある画面、hobby は遊び心のある画面になります。namazu を指定すると、検索結果画面が Namazu 単体で使用したときの検索結果画面と同様の表示になります。

「保存」ボタン

「保存」ボタンをクリックすると、検索ページテンプレートタイプの設定が保存されます。

各検索テンプレートの検索結果画面

default:

enterprise:

hobby:

namazu:

Namazu 情報の検索
検索式: パケット
Search!
[詳細検索] [検索方法]
表示件数: 10 ソート: スコア
検索対象:
: ネットワーク関連文書 ヒット数:238
約238件中 1-10件目 ・検索にかかった時間 0.07秒
1. Linux IPCHAINS-HOWTO: IP ファイアウォ ... (スコア: 181)
著者: 不明
日付: Mon, 14 Jun 2004 19:54:19
4. IP ファイアウォーリングチェイン 4.1 どのようにパケットがフィルタを通過するのか 4.2 実例集 ipchains を使う あなたのコンピュータが起動する時に見るもの 単一のルールでの操作 フィルタリングの仕様 ソー
http://192.168.13.230/JFdocs/IPCHAINS-HOWTO-4.html (62977 bytes)
2. The Linux Kernel: ネットワーク (スコア: 96)

第３章　　インデックス関連メニュー

インデックス一覧

管理画面の左側に表示されるメニューの「インデックス一覧」ボタンをクリックすると、「インデックス一覧」画面が表示され、登録されているインデックスが一覧表示されます。

Kabayaki をインストールした直後など、登録されているインデックスが 1 つも存在しないときは、

新しくインデックスを作成してください。

と表示されます。なお、インデックスについては、『はじめに』を参照してください。

インデックス一覧の表示は、「内部名」のアルファベット順です。

一覧で表示される項目は次の通りです。

表示名

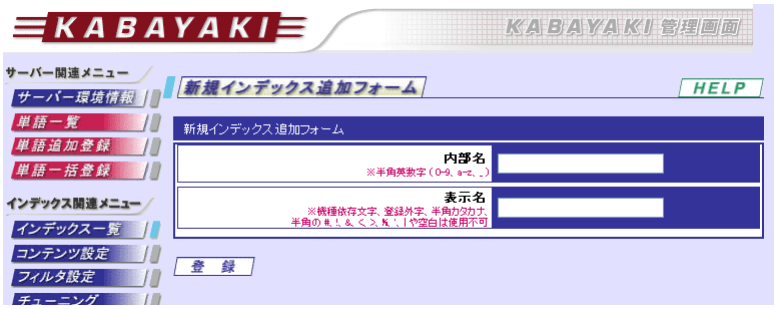
表示名は、この他の Kabayaki 管理画面や検索結果画面でも表示されます。クリックすると、そのインデックスの「コンテンツ設定」画面が表示されます。

内部名

内部名は、Kabayaki が利用する名前です。表示されている内部名をクリックすると、そのインデックスの「コンテンツ設定」画面が表示されます。

新規インデックス追加フォーム

「インデックス一覧」画面の「新規追加」ボタンをクリックすると、「新規インデックス追加フォーム」が表示されます。



項目は次の通りです。

内部名

インデックス識別のために Kabayaki が利用する名前を入力します。半角小文字の英数字とアンダースコア (_) のみが入力できます。

```
0123456789 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz _
```

表示名

Kabayaki 管理画面や検索結果画面で表示されるインデックス名を入力します。機種依存文字や登録外字、半角カタカナは使用できません。また、半角の #!&<>%'| や空白文字も指定できません。

内部名、表示名ともに、入力できる文字数の制限を超えて入力することはできません。

「登録」ボタン

入力されている内容で、Kabayaki のインデックスを新規に登録します。

注意

インデクシングが行なわれている最中に、インデックス追加や削除を実行しないでください。このような操作をしますと、以後、インデクシングや検索が正しく動作しなくなることがあります。

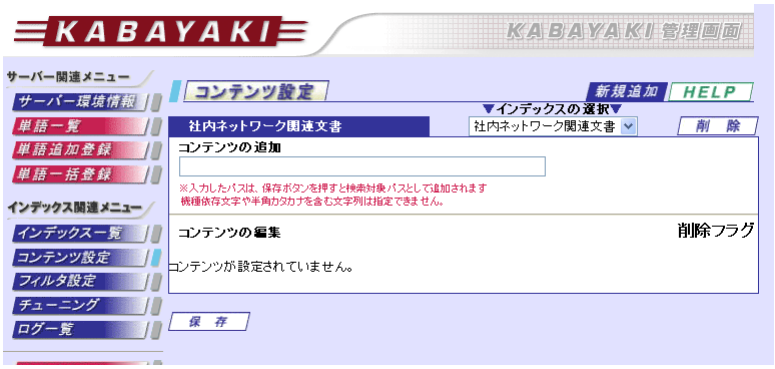
インデックスの数は 64 個まで作成・検索可能です。なお、インデックスの内部名の長さや、Web サーバ、Web ブラウザによって、検索可能なインデックスの数は 64 個よりも少なくなることがあります。インデックスの内部名は検索時の GET パラメータとして利用されるため、作成するイン

デックスの数が多くなる場合は、なるべく短い名前にすることをお勧めします。

コンテンツ設定

それぞれのインデックスに設定されるコンテンツ (検索対象の文書がある場所) を、追加・設定・削除します。コンテンツについては、『はじめに』を参照してください。

管理画面の左側に表示されるメニューの「コンテンツ設定」ボタンをクリックするか、「インデックス一覧」画面で一覧表示されている表示名または内部名のリンクをクリックすると、この「コンテンツ設定」画面が表示されます。



画面に表示されている情報は以下の通りです。

コンテンツの追加

入力フィールドに、インデクシングを実行したい (検索対象にしたい) 文書が含まれるディレクトリのパスを、絶対パスで入力します。検索の対象となるファイルは、指定されたディレクトリ以下の全てのファイルとなります。

このフィールドに機種依存文字や半角カタカナを含む文字列を指定することはできませんので、ご注意ください。

sansyo パッケージが導入されていて、Web スパイダーが動作しているシステムでは、ここに http:// で始まるリモートパスを指定することも可能です。

コンテンツの編集

コンテンツの一覧が表示されます。インデックスが作成された直後の時点では、設定されているコンテンツは存在しないため、

コンテンツが設定されていません。

と表示されます。

コンテンツの追加フィールドには、検索の結果に表示される文書の場所を指定します。コンテンツ (検索対象) としてローカルパスが指定された直後は、「閲覧時の URL」欄には「http:// *ローカルパス* /」のようにローカルパスがそのまま入るため、検索を実行したユーザの Web ブラウザから文書を参照可能な URL にするための変更が必要になることがあります。たとえば、コンテンツが存在するディレクトリが、/usr/local/doc/network に設定されている Web サーバー search.timedia.co.jp の場合は、次のように「閲覧時の URL」を編集します。

http://usr/local/apache/htdocs/yamada →
http://search.timedia.co.jp/yamada

「削除フラグ」チェックボックス

コンテンツを削除するには、コンテンツの編集の一覧の右側のチェックボックスをチェックし、「保存」ボタンをクリックすると、コンテンツが削除され、Kabayaki の設定が変更されます。

文書の格納されている場所によっては、Web ブラウザで検索結果を正しく表示させるために、Web サーバーの設定ファイルの編集が必要になることがあります。

Apache HTTP Server では、標準の設定ファイルである httpd.conf を編集します。たとえば、以下のような行を httpd.conf に追加します。

```
Alias    /doc/network      "/usr/local/doc/network"
```

コンテンツの追加で、異なるディレクトリパスを設定するたびに、上記のような Alias ディレクティブを追加していきます。

Alias を追記したら、Apache HTTP Server を再起動して、httpd.conf の変更を反映させます。

```
# apachectl graceful
```

または

```
# httpd restart
```

フィルタ設定

ファイルの拡張子で示されるファイル形式やサブディレクトリを指定して、検索の対象にするコンテンツを選別 (フィルタリング) することができます。フィルタ設定を上手に利用することによって、無駄なファイルのインデクシングを回避し、インデクシング時間やホストの資源を節約することができます。設定項目の優先順位が低い順に並べると、次の通りになります。

優先順位　低 ⟷ 高　優先順位

検索対象ファイル ＜ 検索対象外ファイル ＜ 検索対象外パス

管理画面の左側に表示されるメニューの「フィルタ設定」ボタンをクリックすると、この「コンテンツ設定」画面が表示されます。

検索対象ファイル

検索の対象にしたいファイル名の拡張子を選び、チェックボックスをチェックします。「.* 全ファイル」をチェックすると、コンテンツに存在する全てのファイルが検索の対象となります。

検索対象外ファイル

検索の対象にしたくないファイル名の拡張子を選び、チェックします。検索対象ファイルの設定で全てのファイルを検索対象としたときの、検索の対象外にしたいファイルの選択に役立ちます。

検索対象外パス

検索の対象にしないディレクトリのパスを指定します。「コンテンツ設定」で指定されているパスの下に存在するが、検索の対象には含めたくないサブディレクトリを指定します。

このフィールドに機種依存文字や半角カタカナを含む文字列を指定することはできませんので、ご注意ください。また、ここで指定できるのはローカルパスのみです。http:// で始まるリモートパスは、「Web スパイダー」の「巡回除外パス」で設定してください。

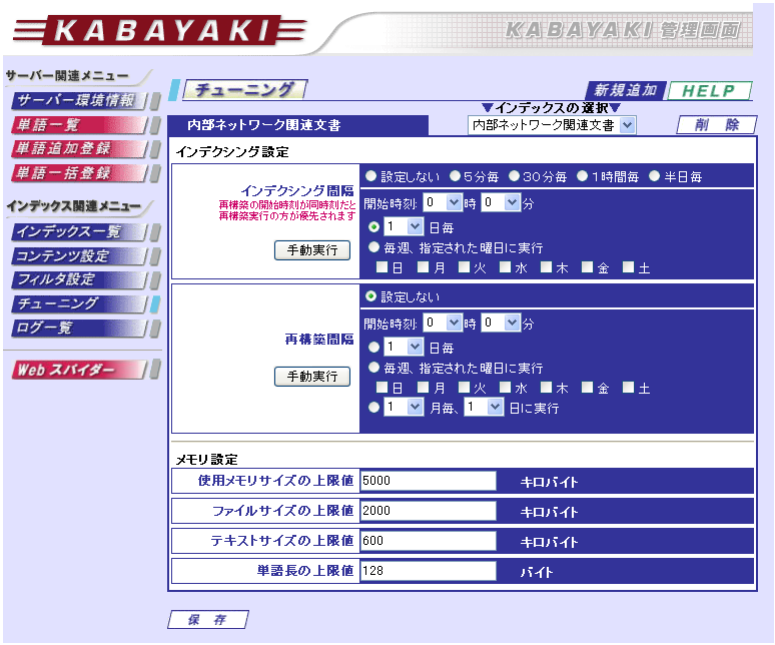
「保存」ボタン

「保存」ボタンをクリックすると、入力されているフィルタ設定を保存します。

チューニング

「チューニング」画面では、日々変化するコンテンツのインデクシングを効率よく管理するための、インデクシング実行の間隔や時刻の設定、メモリ設定等の設定変更機能を提供しています。

管理画面の左側に表示されるメニューの「チューニング」ボタンをクリックすると、次のような「チューニング」画面が表示されます。



インデクシング間隔

インデクシングを実行する間隔、開始時刻、曜日を設定します。インデックス毎に異なった時刻を設定できます。インデクシングの処理対象となるのは、新規追加または更新されたファイルです。

実行間隔を、「設定しない」、「５分毎」、「３０分毎」、「１時間毎」、「半日毎」、「*n* 日毎」、「毎週、指定された曜日に実行」から選択します。

- 「*n* 日毎」、「毎週、指定された曜日に実行」のどちらかを選択すると、「開始時刻 :」で選択した時刻に処理が開始されます。
- 「*n* 日毎」のラジオボタンを選択したときは、何日毎に実行するかをプルダウンメニューで選択できます。既定値は「1 日毎」で、「1 日毎」から「30 日毎」までが選択可能です。
- 「毎週、指定された曜日に実行」を選択すると、「日」から「土」までの曜日選択が有効になります。曜日は複数指定できます。指定省略時は「日」曜日のみが選択されます。

再構築間隔

インデックスの再構築を実行する間隔、開始時刻、曜日を設定します。インデックス毎に異なった時刻を設定できます。処理対象となるのは、全ファイルです。

- 実行間隔を、「設定しない」、「*n* 日毎」、「毎週、指定された曜日に実行」、「*n* 月毎、*n* 日に実行」から選択します。
- 「設定しない」以外を選択すると、「開始時刻 :」で選択した時刻に処理が開始されます。
- 「*n* 日毎」のラジオボタンを選択したときは、何日毎に実行するかをプルダウンメニューで選択できます。既定値は「1 日毎」で、「1 日毎」から「30 日毎」までが選択可能です。
- 「毎週、指定された曜日に実行」を選択すると、「日」から「土」までの曜日選択が有効になります。曜日は複数指定できます。指定省略時は「日」曜日のみが選択されます。
- 「*n* 月毎、*n* 日に実行」のラジオボタンを選択したときは、何か月毎に実行するかと、何日に実行するかを、プルダウンメニューで選択できます。既定値は「1 月毎、1 日に実行」で、月の間隔は 1、2、3、4、6、12 から、日付は 1 日から 31 日までが選択可能です。実行される月は、1 月から数えて *n* 月毎です。(例 :「4 月毎、15 日に実行」を指定すると、1 月 15 日、5 月 15 日、9 月 15 日の年 3 回の実行)
  ※ある月に存在しない日付が指定されていると、その月には再構築が実行されません。31 日を指定する場合などはご注意ください。29 日 (うるう年以外) や 30 日の指定だと 2 月には処理が実行されません。

インデクシングまたは再構築「手動実行」ボタン

左側の欄に存在するインデクシングまたは再構築の「手動実行」ボタンを押すと、すぐにインデクシングまたは再構築が開始されます。

オプションパックの導入や辞書の追加や変更をしたときなど、インデックスを作り直す必要のあるときは、「再構築間隔」の欄の方にある「手動実行」ボタンをクリックして、インデックスを再構築します。

注意

インデクシングの処理実行中に、インデックス追加や削除の操作はしないでください。このような操作をすると、以後、インデクシングや検索が正しく動作しなくなることがあります。

使用メモリサイズの上限値

この値を大きくすると、インデクシングにかかる時間が短縮されることがあります。ただし、ホストの物理メモリが少ない場合などは、かえって遅くなることもあるため注意が必要です。

ファイルサイズの上限値

インデクシングの対象となるファイルの大きさです。この値よりも大きなファイルはインデクシングの対象にはなりません。意図しない検索漏れが発生しないように注意して設定してください。

テキストの上限値

インデクシングの対象となるファイルのテキスト部分の大きさです。この値よりも大きなテキストのサイズのファイルはインデクシングされません。

単語長の上限値

インデクシングの対象となる単語の長さです。この値よりも長い単語はインデクシングされません。この場合、インデクシングされないのは単語のみで、その単語を含むファイルはインデクシングされます。

インデクシングに際しての注意

Kabayaki は、1 つのインデックスに対して、同時に複数のインデクシングプロセスを実行することを禁止しています。そのため、インデクシング実行中に同じインデックスに対してインデクシングを実行しようとすると、以下のようなメッセージがログに出力されることがあります。

> "... not executed, because /*vardir*/kabayaki/targets/*idxname*/lock exists."

vardir には、Red Hat なら /var が、Debian ならば /var/lib が入ります。*idxname* に入るのはインデックスの内部名です。

外部的または内部的な要因によって Kabayaki のプロセスが意図しない異常終了を起こしたときも、該当するインデックスのログ一覧には上記のようなメッセージが表示されます。このような場合は、ロックファイルがファイルシステムに残ったままになっていることにより、それ以後のインデクシングができなくなることがあります。この状態から再びインデクシング実行を可能にするためには、以下の手順で作業してください。

1. 管理画面の左側に表示されるメニューの「ログ一覧」ボタンをクリックして、ログ一覧を表示させます。
   (ログについては、次の節の「ログ一覧」を参照してください)。
2. 「ログ一覧」で上記のメッセージを確認して、ロックファイル /*vardir*/kabayaki/targets/*idxname*/lock を手動で削除します。
3. /*vardir*/kabayaki/index/*idxname*/NMZ.lock2 ファイルが存在していたならば、そちらも削除します。
4. 「チューニングの画面」で、インデクシングまたは再構築の手動実行ボタンを押して、処理が正常に開始されるかどうかを確認します。

ログ一覧

インデクシングに関するログを表示します。ホストのシステム管理者は、ログを定期的に参照することによって、インデクシングの処理状況を確認できます。管理画面の左側に表示されるメニューの「ログ一覧」ボタンをクリックすると、次のような画面が表示されます。

インデクシングのログの一覧が、「**日時　記録 Log ファイル**」という形式で、日付の新しい順に表示されます。

ログの一覧の行をクリックすると、画面下部のテキスト領域に詳細なログが表示されます。詳細表示される項目は次の情報です。

- 日付
- 追加された文書数
- 削除された文書数
- サイズ
- 更新された文書数
- 合計の文書数
- 追加キーワード数
- 合計キーワード数
- わかち書き ・経過時間
- ファイル / 秒 ・システム
- Namazu
- エラー、警告、詳細

ログファイルは、RedHat では /var/kabayaki/index/ *内部インデックス名* /TS.log ディレクトリの下に、Debian では /var/lib/kabayaki/index/ *内部インデックス名* /TS.log ディレクトリの下に出力されます。不要なログファイルの削除は、手動で実行する必要があります。以下の例では、RedHat 上で、内部名が test1 というインデックスのログを全て削除します。

```
# rm /var/kabayaki/index/test1/TS.log/indexer*
```

第 4 章　検索および検索結果画面

検索画面の表示

インデックス作成後に実際に検索するには、Microsoft Internet Explorer や Netscape Communications Netscape Navigator などの Web ブラウザに以下のような URL を入力して、検索画面を表示させます。

http:// *ホスト名* /kabayaki/

「*ホスト名*」の部分には、Kabayaki をインストールしたコンピュータの名前を入力します。

たとえば、Kabayaki をインストールしたホストが search.timedia.co.jp ならば、次の URL になります。

http://search.timedia.co.jp/kabayaki/

Web ブラウザには、次のような検索画面が表示されます。

検索画面 :

検索文字列を指定して「Search!」ボタンを押すと、検索結果画面が表示されます。

検索結果画面 :

検索方法

検索式

単一単語検索

調べたい単語を 1 つ指定するだけのもっとも基本的な検索手法です。例 :

namazu

AND 検索

ある単語とある単語の両方を含む文書を検索します。検索結果を絞り込むのに有効です。3 つ以上の単語を指定することも可能です。単語と単語の間に and または & を挿みます。例 :

Linux and Netscape

and または & は省略できます。単語を空白で区切って羅列するとそれらの語すべてを含む文書を AND 検索します。

OR 検索

ある単語とある単語のどちらかを含む文書を検索します。3 つ以上の単語を指定することも可能です。単語と単語の間に or または | を挿みます。例 :

Linux or FreeBSD

NOT 検索

ある単語を含み、ある単語を含まない文書を検索します。3 つ以上の単語を指定することも可能です。単語と単語の間に not または ! を挿みます。例 :

Linux not UNIX

グループ化

AND 検索、OR 検索、NOT 検索を括弧でグループ化できます。括弧の両隣には空白を入れる必要があります。例 :

(Linux or FreeBSD) and Netscape not Windows

部分一致検索

部分一致検索には前方一致、中間一致、後方一致の 3 種類があります。

- 前方一致検索
  inter* (inter から始まる単語を含む文書を検索)
- 中間一致検索
  text (text を内包する単語を含む文書を検索)
- 後方一致検索
  *net (net で終わる単語を含む文書を検索)

フィールド指定の検索

Subject:、‘From:、Message-Id: といったフィールドを指定して検索する手法です。特に Mail/News のファイルを扱う際に効果を発揮します。例 :

- +subject:Linux
  (Subject: に Linux が含まれる文書)
- +subject:"GNU Emacs"
  (Subject: に GNU Emacs が含まれる文書)
- +from:foo@bar.jp
  (From: に foo@bar.jp が含まれる文書)
- +message-id:<199801240555.OAA18737@foo.bar.jp>
  (Message-Id を指定)

特記事項

- いずれの検索方法でもアルファベットの大文字・小文字の区別 はしません。
- 日本語の複合語は形態素単位に分割し、それらをフレイズ検索します。分割は不適切に行なわれることがあります。
- JIS X 0208 (いわゆる全角文字) の英数字と記号の一部 (ASCII と重複しているもの) は ASCII (いわゆる半角文字) として処理されます。
- 記号を含む語の検索ができます。例 : TCP/IP。ただし、記号の処理は完全ではないので TCP and IP のように分割して AND 検索をかけた方が取りこぼしがありません (その代わり余計なファイルまでヒットしてしまう可能性があります)。
- 中間一致・後方一致、正規表現、フィールド指定の検索には少し時間がかかります。
- and, or, not を単語として検索したいときはそれぞれ、"..." と 2 重引用符で、あるいは {...} と中括弧で囲みます。

ソート

標準の Kabayaki パッケージでは、検索結果を、スコア、日付、題名、著者、サイズ、URI の順で並べ替えることができます。既定値はスコア順でのソートです。

スコア

- 基本的には、指定された検索文字列の登場回数が多い文書ほどスコアの数値は高くなります。
- 検索文字列が文書のどの場所に含まれるかで、スコアに加算される数値が変わることがあります。登場回数が同じ 1 回でも、たとえば検索文字列がタイトルに使用されている文書は、そうでない文書よりもスコアが高くなります。

複数の検索文字列が指定された場合は、ヒットした文書数の少ない文字列をより多く含む文書の方がスコアが高くなる傾向があります。

付録 A　文書フィルタとプロパティ検索詳細

文書フィルタ

Kabayaki は、文書フィルタと呼ばれる外部プログラムと連携して、HTML やテキストファイル以外の文書形式も検索の対象とすることができます。文書フィルタには次のような特徴があります。

GPL 版

Namazu に添付されている文書フィルタを利用します。Microsoft Word、Microsoft Excel などの文書ファイルを検索の対象とすることを可能にするためには、Xlhtml、wv 等の外部プログラムを入手してインストールする必要があります。詳しい情報については、Namazu のドキュメントを参照してください。

製品版 (オプションパック sansyo を購入)

Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft PowerPoint、Adobe PDF の文書について、高い精度の検索を提供します。さらに、ジャストシステム 一太郎、富士通 OASYS 等、GPL 版では検索できない文書形式に対応します。

対応文書

GPL 版

namazu-2.0.13 と同等です。

オプションパック sansyo をインストールした場合

- テキスト文書 JIS/EUC/SJIS
- HTML 文書
- Microsoft Word 95/97/98/2000/2002(XP)
- Microsoft Excel 95/97/2000/2002(XP)
- Microsoft PowerPoint 95/97/2000/2002(XP)
- Microsoft Rich Text Format

- ジャストシステム 一太郎 5 〜 13
- 富士通 OASYS V6/V7
- Adobe Portable Document Format Acrobat 4.0/5.0/6.0(PDF 1.3/1.4/1.5)
- Mail/News

その他の文書については、namazu-2.0.13 と同等です。

プロパティ検索

プロパティとは、文書を識別するためにファイルに埋め込まれた文書の属性情報のことです。オプションパックの sansyo パッケージをインストールすると、プロパティを検索の対象とすることができます。プロパティには、タイトル、作成者の名前、キーワード、コメントなどを記録されています。プロパティに関しては、各文書を作成するアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

表 1 Kabayaki で検索できるプロパティ

プロパティ	説明	Word	Excel	PowerP	PDF	一太郎	OASYS
title	タイトル	○	○	○	○	×	×
author	著者	○	○	○	○	×	×
company	会社名	○	×	○	×	×	×

OLE オブジェクト検索

オプションパック sansyo では、OLE で埋め込まれたオブジェクトも検索の対象とすることができます。OLE に関しては、OLE をサポートしているアプリケーションの取扱説明書をご覧ください。

表 2 Kabayaki で検索できる OLE オブジェクト

Dest/Source	Word	Excel	PowerPoint
Word	○	○	×
Excel	○	○	×
PowerPoint	×	×	×